

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330030

研究課題名（和文）先進諸国の経済政策形成における専門性の役割ーデモクラシーとの「相克」と「和解」

研究課題名（英文）The Role of Expertise in Policy-making in Advanced Democracies

研究代表者

高橋 直樹 (TAKAHASHI NAOKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30146948

研究成果の概要（和文）：本研究は、先進デモクラシー諸国の経済政策形成過程における専門性の役割を解明することを目的としている。研究の結果、専門性と専門家はデモクラシーが置かれた多様な政治的・経済的・社会的文脈に埋め込まれていることなどが明らかとなった。さらに、政策形成において専門性・専門家が一定の役割を果たす上で必要な条件や、専門性とデモクラシーとの間の補完関係と相克関係などについて、新たな知見を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to analyze the role of expertise in policy-making in advanced democracies. As a result, we found that expertise and experts are embedded in political, economic, and social contexts in which the democracies are located. Moreover, we obtained new knowledge on the conditions under which expertise and experts can play a certain role in policy-making, the complementary and conflictual relationship between democracy and expertise, and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2008年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2009年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2010年度	3,000,000	900,000	3,900,000
総計	14,900,000	4,470,000	19,370,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治学、経済政策、専門性、政策形成

1. 研究開始当初の背景

現代では、ポスト産業社会の到来、グローバル化やIT化の進展などによって複雑化した社会経済的構造の下、政策形成における専門家の役割や専門知識の重要性は急速に増し、多くの注目を集めている。このため、先進デモクラシー諸国の政策形成過程における専門性の役割についての研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、先進デモクラシー諸国の経済政

策形成過程における専門性の役割を解明することを目的としている。すなわち、①デモクラシーはいかにして専門家を受け入れるのか、②専門性は、どのようなエージェントや制度によって政策形成過程に組み込まれているか、③専門性はいかなる政治的意義を有するか、といった諸問題について、通時的比較（時系列的歴史的な発展と変容）と共時的比較（地域横断的比較）を組み合わせたことによって検討を加えることとしている。

3. 研究の方法

ほぼ2か月に1度の研究会を定期的に開催し、各自の研究成果の共有と、専門性（専門家）概念についての検討を重ねてきた。

理論枠組みについては、研究代表者の高橋直樹のとりまとめの下、内山融、岡山裕、伊藤武が中心的に検討を行い、研究会で報告した上で、メンバーのコメントをフィードバックするという形をとった。

各国の実証研究については、やはり高橋直樹のとりまとめの下、各自が担当部分の調査を行った上で、研究会での報告とメンバーのフィードバックを繰り返して、研究を練り上げていった。具体的には、高橋は英国における専門家と政治家の関係について、荻田真司は日米欧の社会科学の制度化について、岡山裕は米国連邦準備制度の展開過程について、伊藤正次は日本における専門家の助言制度について、川嶋周一はヨーロッパ共通農業政策について、伊藤武はヨーロッパにおける中央銀行テクノクラートについて、藤田由紀子は地方自治体における専門家について、内山融は日英の経済政策について、鹿毛利枝子はNGOの日米比較について、杉之原真子は日米金融交渉について、天野拓は米国の医療政策について、各々研究を行った。

4. 研究成果

上記のような分析・検討の結果として、一般論として、専門家は利害や選好など専門性以外の要因に行動をかなりの程度規定され、それらの要因は専門性の社会的存立や正当性の維持を大きく左右していること、専門家は専門性に立脚して社会的に独立の立場から一方的に影響力を行使するのではなく、政治アクターが専門家の「自立性」に関する社会の認識を利用する場合もあることを踏まえなくてはならないこと、専門性はデモクラシーが置かれた多様な政治的・経済的・社会的文脈に埋め込まれていることなどが明らかとなった。こうした知見は、専門家や専門性についてのこれまでの固定的な見解に見直しを迫り、新たな解釈を導くという点で、大きな学術的貢献だといえる。

また、先進諸国の比較研究を通じて、各国の政策形成に専門性・専門家が果たす役割やそうした役割を果たす上で必要な条件、専門性とデモクラシーとの間の補完関係と相克関係などについて、これまでにない知見を得ることができた。これら一連の成果は、『専門性とデモクラシー（仮題）』としてミネルヴァ書房より近日刊行予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

1.伊藤正次「直接民主制の功罪」『住民行政の窓』、査読無、358号、2011、8-17。

2.荻田真司「社会科学的知識の実践性をめぐって」『國學院法學』、査読無、48巻、2011、1-17。

3.内山融「日本政治のアクターと政策決定パターン」『季刊政策・経営研究』、査読無、3巻、2010、1-18。

4.伊藤正次「自治体の政策決定機構」『地方自治職員研修』、査読無、607号、2010、20-22。

5.伊藤正次「自治体基本構造の選択と地方政府基本法のあり方」『都市問題』、査読無、101巻9号、2010、65-72。

6.伊藤正次「自治体基本構造改革の課題と展望」『月刊自治フォーラム』、査読無、615号、2010、4-10。

7.岡山裕「政治インフラとしての法曹とその組織」久保文明編『アメリカ政治をささえるもの』（日本国際問題研究所）、査読無、2010、179-201。

8.伊藤武「書評：学界展望<<ヨーロッパ政治史>>（Kees van Kersbergen and Philip Manow. eds. 2009. *Religion, Class Coalitions, and Welfare States*. Cambridge University Press. i-xiv,1-304.）」『国家学雑誌』、査読無、122巻11・12号、2009。

9.Yu UCHIYAMA, "Shifting Prime Ministerial Power and Its Consequences on Neo-liberal Reforms in Japan," in Roland Czada and Kenji Hirashima eds., *Germany and Japan after 1989: Reform Pressures and Political System Dynamics*, ISS Research Series, 査読無、33号、2009、23-37。

10.藤田由紀子「技術系行政職員の専門性と人事制度の課題」『地方公務員月報』、査読無、556巻、2009、2-13。

11.伊藤武「書評：藤田由紀子著『公務員制度と専門性—技術系行政官の日英比較』（専修大学出版局、2008年）」『専修大学法學研究所報』、査読無、31号、2009、29-31。

12.川嶋周一「比較・関係・制度—国境を超える政治構造の歴史をいかに記述するか」『創文』、査読無、516号、2009、6-10。

13.川嶋周一「ヨーロッパ構築過程における共通農業政策の起源と成立 1950-1962」『政策論叢』、査読有、77巻3・4号、2009、239-295。

Masako SUGINOHARA, "Who Liberalizes? The Politics of Financial Services Reform in Japan," ISS Research Series, 査読無、33号、2009、131-146。

14.伊藤武「政党競合の2ブロック化論をめぐると考察—イタリア第2共和制における政党政治の変化」『専修法學論集』、査読無、104号、2008、85-128。

15.伊藤武「『無垢な羊』か『狡猾な狐』か—近現代イタリア政治にみる専門家と民主政治の関係」『創文』、査読無、514号、2008、

- 14-18。
- 16.伊藤正次「今次分権改革の位置づけと課題—行政学の観点から」『ジュリスト』、査読無、1355号、2008、86-90。
- 17.伊藤正次「改正社会教育関連三法と自治体」『地方自治職員研修』、査読無、577号、2008、22-24。
- 18.伊藤正次「書評：森田朗著『制度設計の行政学』」『季刊行政管理研究』、査読無、9月号、2008、69-73。
- 19.伊藤武「領域性(Territoriality)」と地域—イタリヤにおける地域開発と公的金融からの接近」『地域研究』、査読無、8巻1号、2008、70-82。
- 20.荻田真司「ジョン・デューイの欧州大戦」『國學院法学』、査読無、46巻、2008、1-33。
- 21.杉之原真子「2つのグローバル化と企業統治改革—1993年から2002年の商法改正の分析」『国際政治』、査読有、153号、2008、91-105。
22. Masako SUGINOHARA, "The Politics of Economic Nationalism in Japan: Backlash against Inward Foreign Direct Investment?," *Asian Survey*, 査読有、48巻5号、2008、839-859。
- 23.藤田由紀子「わが国の食品安全行政の現状と課題」『公衆衛生』、査読無、72巻10号、2008、787-790。
- 24.内山融「安倍政権のリーダーシップ」『世界』、査読無、768巻、2007、83-91。
- 25.伊藤正次「首長制の責任領域の拡大が問われる—行政委員会制度改革の視点」『都市問題』、査読無、98巻7号、2007、57-64。
- 26.伊藤正次「政治の倫理化」『都市問題・後藤新平生誕150周年記念』、査読無、8月号特別増刊、2007、32-33。
- 27.伊藤正次「社会教育事業」『都市問題・後藤新平生誕150周年記念』、査読無、8月号特別増刊、2007、34-35。
- 28.川嶋周一「欧州共通農業政策の成立とヨーロッパ統合の政体化：コミトロジー・システムの成立・拡散の考察から」『政経論叢』、査読有、76巻、2007、107-134。
- 29.川嶋周一「前を向きながら過去を遡ること／後ろ向きに未来の中に入ること：ヨーロッパ統合史研究の射程と課題に代えて」『創文』、査読無、499巻、2007、5-9。
- 30.鹿毛利枝子「日本における団体参加の歴史的推移—第二次世界大戦のインパクト—」『レヴァイアサン』、査読無、41巻、2007、45-73。
- 31.鹿毛利枝子「市民団体の集団・組織分析」『レヴァイアサン』、査読無、40巻、2007、130-138。

[学会発表] (計 31 件)

1. Takeshi ITO, "Searching for the Ordoliberal

Origin of European Integration: Lessons from the Politics of the European Recovery Program," the European Union Study Association, 2011年3月4日、Boston, MA, USA.

2. Takeshi ITO, "A Discourse Analysis of Institutional Change: European Competition Policy under the Modernization Reform," the Biannual Conference of the European Union Studies Association (EUSA), 2011年3月3日、Plymouth, Hyatt Regency Boston, MA, USA.

3. Masatsugu ITO, "Reform of the Quasi-governmental Organizations in Japan," International Conference on Reform of Public Service Unit and Development of Public Service, The State Commission Office for Public Sector Reform, Chinese Society for Government Reform, Chinese Public Administration Society, United Nations Development Programme, and China International Center for Economic and Technical Exchange, 2010年7月10日、中華人民共和国・北京市・北京国際飯店。

Takeshi ITO and Masako SUGINOHARA, "Two Birds of the Same Feather? Breakdown and Revival of Clientelist Political Networks in Italy and Japan," [http://www.allacademic.com/meta/p401221_index.html], the Seventeenth International Conference, Council for European Studies, 2010年4月15-17日、Montreal, Canada.

4. Hiroshi OKAYAMA, "The Genesis of U.S. Independent Regulatory Commissions and the Political Origins of a Judicialized Administrative State," Policy History Conference, 2010年6月4日、Hyatt at Capitol Square, Columbus, Ohio, U.S.A.

5. Shuichi KAWASHIMA, "From Community to Polity? History of Comitology and Development of the Governance Structure within the European Community, 1960-1986," RASCAS Seminar, Robert Schuman Centre for Advanced Studies, European University Institute, 2010年11月10日、Firenze.

6. Rieko KAGE, "Rebuilding from War in Japan: Information and Coordination, 1945-55," Association for Asian Studies, 2010年3月28日、Philadelphia, USA.

7. Takeshi ITO, "Competing for the exits: Recasting Bismarckian pension reforms in Europe and Japan," Annual Meeting of American Political Science Association. (Division: Aging Policy and Politics Group: Crossnational Perspectives on Aging Politics), 2009年9月3-6日、Toronto, Canada.

8. 伊藤武「欧州競争政策の再検討—その政治的意義と展望」、公正取引委員会インフォーマルワークショップ、2009年2月27日、

競争政策研究センター。

9. 伊藤武「過剰規制国家からの転換?—グローバル化とEU統合の中のイタリア—」、科学研究費補助金・基盤研究(B)「自由主義レジームの変容と多様性に関する労働・福祉政治の比較研究研究会」、2009年3月7日、御茶ノ水龍名館。

10. 藤田由紀子「医薬品規制行政における「専門性」、政策形成における専門性の役割研究会第9回、2009年9月24日、東京大学駒場キャンパス。

11. 岡山裕「専門性(研究)の再構成」、政策形成における専門性の役割研究会第10回、2009年11月5日、東京大学駒場キャンパス。

12. 杉之原真子「覇権後の世界における国際金融危機と国際協力—G7からG2への移行?」、日本国際政治学会2009年度研究大会、2009年11月6-8日、神戸国際会議場。

13. 杉之原真子「市場主義の終焉?—世界金融危機をめぐる日米欧の政策分析」、日本比較政治学会2009年研究大会、2009年6月27日、京都大学。

14. 杉之原真子「2つのグローバル化と企業統治改革—1993年から2002年の商法改正の分析」、公正取引委員会競争政策研究センターBBLセミナー、2009年6月19日、公正取引委員会。

15. Rieko KAGE, "Rebuilding from World War II: Civil Society and Information in Post-Conflict Societies," Social Science History Conference, 2009年11月15日、Long Beach, USA.

16. 高橋直樹「英国ブレア政権における専門家の役割とデモクラシーの行方」、日本比較政治学会、2008年6月21日、慶應義塾大学。

17. Takeshi ITO and Masako SUGINOHARA, "Farewell to the Odd Twins? The Historical Transformation of Clientelistic Political Networks in Postwar Italy and Japan," The American Political Science Association, 2008年8月28日、Hynes Convention Center, Boston.

18. 伊藤武「2大政党への道?—イタリア第2共和制下の政党競合」日本比較政治学会、2008年6月21日、慶應義塾大学。

19. Masatsugu ITO, "The "Second Stage" Decentralization Reform and Regionalism in Japan," Korean Association for Public Administration, 2008年10月17日、Hotel Seol Kyoyuk Hoekwan.

20. 伊藤正次「教育再生と教育委員会制度—「福音」と「逆説」」、日本教育行政学会、2008年10月12日、東京大学。

21. 伊藤正次「日本の検査行政と「専門性」—金融検査行政を素材として」、日本比較政治学会、2008年6月21日、慶應義塾大学。

22. Yu UCHIYAMA, "Leadership Strategies and Boundary Transition among and within Parties in

Japan," The workshop on "Decoding Boundaries in Postwar Japan: The Koizumi Administration and Beyond," 2008年3月14日、Sheffield, UK.

23. 岡山裕「アメリカ行政国家における司法の領分」、日本政治学会、2008年10月12日、関西学院大学。

24. Hiroshi OKAYAMA, "Creating the 'Supreme Court of Finance': U.S. State-Building and the Judicial Roots of the Federal Reserve Board," The Midwest Political Science Association, 2008年4月4日、The Palmer House Hilton, Chicago, USA.

25. 川嶋周一「ヨーロッパ統合史のヒストリオグラフィーと60年代(—70年代)研究の射程」、慶應EU研究会、2008年5月24日、慶應大学三田キャンパス。

26. Yu UCHIYAMA, "Shifting Prime Ministerial Power and its Consequences on Neoliberal Reforms in Japan," The DFG-JSPS Joint Seminar on "Germany and Japan after 1989: Reform Pressures and Dynamics of Political System," 2007年9月25日、Osnabruck, Germany.

27. 伊藤武「政治経済体制システムの変容—政労使協調(contertazione)の視角から」、日本政治学会、2007年10月7日、明治学院大学。

28. Rieko KAGE, "Bowling Together, Fighting Together: The Long-Term Impact of War on Civic Engagement," American Political Science Association, 2007年8月31日、Chicago, USA.

29. 菊田真司「社会科学的言説と「専門性」—相互作用の変容過程」、日本政治学会研究大会、2007年10月7日、明治学院大学。

30. 杉之原真子「対内直接投資と経済ナショナリズムをめぐる政治」、日本政治学会、2007年10月6日、明治学院大学。

31. 杉之原真子「市場の論理か国内政治か? グローバリゼーションと経済政策の選択をめぐる」、日本国際政治学会、2007年10月26日、福岡国際会議場。

〔図書〕(計19件)

1. 伊藤武・内山融・岡山裕編『専門性とデモクラシー(仮題)』ミネルヴァ書房、2011。(刊行決定)

2. 川嶋周一「もう一つの「正史」: 農業統合の系譜とプー・ヴェール交渉1948-1954年」遠藤乾・板橋拓己(編)『複数のヨーロッパ: 欧州統合史のフロンティア』(掲載確定)北海道大学出版会、2011、340。

3. 藤田由紀子「基調講演「都市自治体行政における専門性へのアプローチ」財団法人日本都市センター編『第8回都市政策研究交流会—都市自治体行政の専門性確保—』財団法人日本都市センター、2011、81。

4. 藤田由紀子「児童相談行政の歴史と業務」財団法人日本都市センター編『児童相談行政における業務と専門性—みんなで支える子

どもと命ー』財団法人日本都市センター、2011、125。

5. 藤田由紀子「自治体（技術系）行政職員の専門性—専門性の定義と視角を中心に—」財団法人日本都市センター編『都市自治体行政の「専門性」—総合行政の担い手にもとめられるもの—』財団法人日本都市センター、2011、148。

6. Yu UCHIYAMA, *Koizumi and Japanese Politics: Reform Strategies and Leadership Style*, Routledge, 2010, 210.

7. Yu UCHIYAMA, “Leadership Strategies: (Re)drawing Boundaries among and within Parties in Japan,” in Glenn D. Hook (ed.), *Decoding Boundaries in Contemporary Japan: The Koizumi Administration and Beyond*, Routledge, 2010, 288.

8. 伊藤武「イタリアの労働政治—歴史的拘束と新しい環境への適応」新川敏光・篠田徹（編著）『労働と福祉国家の可能性』、ミネルヴァ書房、2009、214—30、335。

9. 岡山裕「再建と金メッキ時代」有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009、70—87、398。

10. 岡山裕「イデオロギー政治の変容と連邦司法人事—共和党政権の人事戦略の「転換」を中心に」五十嵐武士・久保文明編『アメリカ現代政治の構図—イデオロギー対立とそのゆくえ』、東京大学出版会、2009、221—250、340。

11. 天野拓「政府・企業・個人：現代アメリカにおける医療保障制度改革をめぐる対立の構図」杉田米行編「日米の医療：制度と倫理」、大阪大学出版会、2008、97-126、270。

12. 伊藤武「イタリア—キリスト教民主党的崩壊過程の予備的考察」田口晃・土倉莞爾編著『キリスト教民主主義と西ヨーロッパ政治』木鐸社、2009、211。

13. 伊藤武「イタリア・プロディ政権の成立と崩壊—憲法制度改革と社会経済改革をめぐる変容」高橋進・安井宏樹編『政治空間の変容と政策革新4 政権交代と民主主義』東京大学出版会、2008、206。

14. 伊藤武「イタリア」竹下讓監修『よくわかる世界の地方自治制度』イマジン出版、2008、244。

15. 伊藤正次「国による「上からの」分権改革—コア・エグゼクティブの変動と「併発型」改革の展開」森田朗・田口一博・金井利之編『政治空間の変容と政策革新3 分権改革の動態』東京大学出版会、2008、268。

16. 川嶋周一「大西洋同盟の動揺とEECの定着」遠藤乾編『原点 ヨーロッパ統合史—史料と解説』名古屋大学出版会、2008、804。

17. 藤田由紀子『公務員制度と専門性—技術系行政官の日英比較』専修大学出版局、2008、

334。

18. 宮島喬・伊藤武『地域のヨーロッパ多層化・再編・再生』人文書院、2007、44—66、321。

19. 久保文明・岡山裕『個人と国家のあいだ』ミネルヴァ書房、2007、87—109、310。

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』北樹出版、2007、14—88、265。

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.comp.metro-u.ac.jp/msito/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋直樹 (TAKAHASHI NAOKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30146948

(2) 研究分担者

伊藤 武 (ITO TAKESHI)

専修大学・法学部・准教授

研究者番号：70302784

伊藤 正次 (ITO MASATSUGU)

首都大学東京・大学院社会科学研究科・教授

研究者番号：40347258

内山 融 (UCHIYAMA YU)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：00242066

岡山 裕 (OKAYAMA HIROSHI)

慶應義塾大学・法学部・准教授

研究者番号：70272408

鹿毛 利枝子 (KAGE RIEKO)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：

荻田 真司 (KARITA SHINJI)

國學院大学・法学部・教授

研究者番号：

川嶋 周一 (KAWASHIMA SYUICHI)

明治大学・政治経済学部・准教授

研究者番号：

藤田 由紀子 (FUJITA YUKIKO)

専修大学・法学部・准教授

研究者番号：00338584

(3) 連携研究者

天野 拓 (AMANO TAKU)

熊本県立大学・総合管理学部・准教授

杉之原 真子 (SUGINOHARA MASAKO)

上智大学・非常勤講師